

(論文)

中国語教育において、予め整理しておくべきこと —結果補語をモデルとして—

秋山 淳

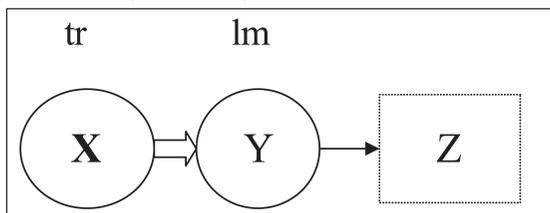
要約

動詞＋結果補語を持つ構文（以下 VR 構文）は(A)“武松打死了老虎”の“打死”のように主語の動作が目的語に何らかの影響を与えるという使役的な意味を表すもののほかに(B)“你看完这本杂志了吗?”の“看完”や(C)“他喝醉了”の“喝醉”のように非使役的な意味を表すものも存在する。一方、英語では中国語のVR構文に相当する(D)“John hit the metal flat”のような結果構文は(A)と同様に使役的な意味を持つもののみである。本稿では、英語の結果構文は使役的な意味のみであるのに対し、中国語ではVR構文が使役的な意味から非使役的な意味まで表せる仕組みの考察を行い、中国語教育における補助的な役割を目指すものである。

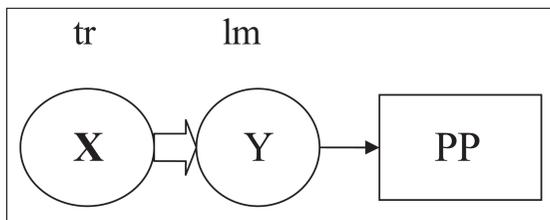
1. 英語の結果構文

村尾 (2006) によれば、英語の結果構文は使役他動詞構文と make 使役構文 / 不変化詞構文を受け継いだものであるという(村尾, 2006, p.211)

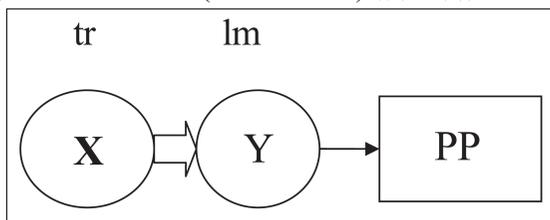
(1) Causative(X break Y)



(2) Make-causative(X make Y AP)/Particle(X knock Y PP)



(3) Basic Resultative(X break Y PP) ((1)+(2))



そして、英語の結果構文は、X causes Y to become Z(SVOC) という使役構造を持つモデル構文を反映しているものであり、それは因果関係 (causality) がカギとなっている：¹

(4) John hammered the metal flat. 「ジョンは金属を平らに叩きのぼした」

(5) John broke the vase into pieces. 「ジョンは花瓶を粉々に割った」

(6) John painted the wall red. 「ジョンは壁を赤く塗った」

では、中国語の VR 構文はどのような構文を反映したものなのであろうか？英語の結果構文と同じような使役構造がモデルとなっているのだろうか？それとも何か別な構文がモデルとなっているのだろうか？次節では、中国語の VR 構文の実例を見ていくことにする。

2. 中国語の VR 構文

中国語の VR 構文は使役的な意味に解釈されるタイプと非使役的な意味に解釈されるタイプの二種類がある。

2.1. 使役的な意味に解釈されるタイプ

(7) 武松打死了老虎。「武松が虎を殴り殺した」

(8) 胖子坐塌了椅子。「太っちょが椅子を(座って)へこませた」

(9) 张三推倒了大树。「張三は木を押し倒した」

(7)-(9) の意味構造は次のようになる：²

(7) [武松打(了)老虎]cause[老虎死(了)]

(8) [胖子坐(了)]cause[椅子塌(了)]

(9) [张三推(了)大树]cause[大树倒(了)]

(7)～(9) は英語の結果構文とは語順が異なるものの、主語の行為が目的語の状態を変化させているという使役的な意味を表していると解釈できる。次に非使役的な意味に解釈されるタイプを見てみよう。

2.2. 非使役的な意味に解釈されるタイプ

(10) 这本书我已经看完了。「この本はもう読み終わりました」

(11) 我们学到第十三课了。「我々は第 13 課まで学習しました」

(12) 昨天我在街上看见了他。「昨日街で彼に会いました」

(13) 他喝醉了。「彼は(酒を飲んで)酔いました」

(14) 孩子们都跑累了。「子供たちは走り疲れた」

(15) 他跑丢了一双鞋。「彼は走っているうちに靴を一足なくしました」

(10) の“完”は「～し終わる、～し尽くす」、(11) の“到”は「空間、時間への到達や目的の達成」、(12) の“見”は「(視覚・聴覚・味覚などを)感じ取る、認識する」ことを表すものである。それぞれの VR である“看完”“学到”“看见”は他動詞ではあるが、目的語(または主題)の状態変化を引き起こしているとは解釈されない。(13) の“喝”も、(14) の“跑”も動作主を主語に取る動詞である：

(16) 我喝茶。「私はお茶を飲む」

(17) 跑吧!美乐斯。「走れ、メロス」

にもかかわらず，VR である“喝醉”，“跑累”は主語の動作ではなく，状態変化を表しているとして解釈される。(15)は他動詞構文ではあるが，主語は動作主(使役主)には解釈されず，(15)は非使役的な意味に解釈される。次に VR が存現文に現れる例も確認する。

2.3. 存現文に現れる VR の存在

(18) 一个 8 岁孩子到附近玩耍时掉入井里淹死了。「8 歳の男の子が近くで遊んでいた時に井戸に落ち，溺れ死にました」：³

(19) 河里淹死了一只羊。「川で羊が一匹溺れ死んだ」

(20) “嘟嘟”，又是个电话，一名抽泣着的女子说，“我只想说声对不起。”她说自己的车在一次交通事故中撞死了五个人，“我真希望他们能复活。”『『リンリン』また電話だ。ある女の子が泣きじゃくりながら『ただごめんなさいと言いたいただけなんです』と話した。彼女によれば自分の運転していた車が事故で 5 人をひき殺したという。『本当に 5

(21) “上个月撞死三十七个人”我看着路口竖立的交通事故广告牌说。「私は交差点に立ってかけてある『先月 37 人が事故死している』という交通事故の公告板を見ていた。」

(18)(19) の“淹死”の“淹”「溺れる」は非対格動詞，“死”も非対格動詞であるため，(18) では“淹死”は主語である“孩子”の行為ではなく、状態変化を表していると解釈される。(19) は存現文であり，“淹死”が使役的な意味を持つとは解釈されない。なぜなら，存現文とは，ある空間，ある時間に，ある事物または事象(出来事)が存在・出現，消失することを表すものであり，“河里”は事象が生じる空間を表すだけで，使役主には解釈されないからである。

(20)(21) の“撞死”の“撞”「衝突する」は他動詞であり，“死”は非対格動詞である。

(20) では“自己的车”「自分の車」が「使役主」，“五个人”「五人」が「被使役主」であると考えられ，(21) は使役的な意味に解釈できる。(21) は存現文であり，(19) と同様に，使役的な意味を表しているとは解釈できない。

3. 小結

(i) 英語の結果構文は X の行為 (V) が Y を Z の状態にさせるという X causes Y to become Z という因果関係 (causality) を反映する構文として記号化 (言語化) されたものである (村尾, 2006; Goldberg, 1995)。

(ii) 中国語では VR 構文は使役的に解釈されるタイプ ((7) ~ (9)) だけではなく，非使役的な意味に解釈されるタイプ ((10) ~ (15)) も存在する。従って，中国語の VR 構文は英語の結果構文とは異なり，因果関係を反映する構文として記号化されたものばかりではない。VR 構文が因果関係を反映する構文として記号化されたものであるとは言い難い。

では中国語の VR 構文は何を反映したもののなのであろうか？次節では，それを考えるうえで，参考になる先行研究を見ていくことにする。

4. VR 構造は時間の推移に沿った「局面変化」という見方

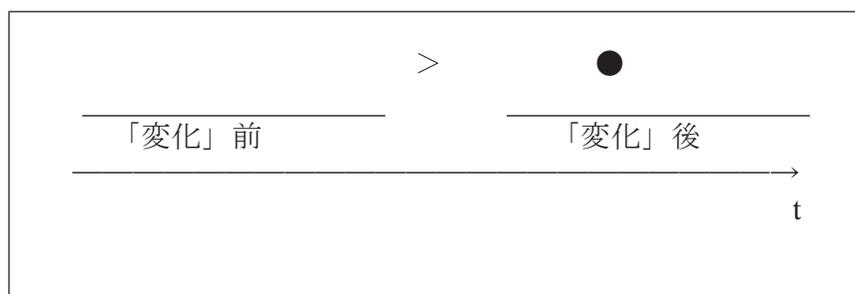
VR 構文が何を反映しているのかを考えるうえで、参考になる先行研究に、木村 (1997)、井上 (2004) の二つの研究がある。中でも、井上 (2004) は次のように主張する：⁴

(22) a. 「変化」は時間の推移の中でのみ存在可能な事象である。

b. 中国語では、述語句の構成要素自体は時間の推移の意味を含んでおらず、「変化」を叙述するには、「動作」と「結果」の二つに言及して時間の推移を表すことが必要である。

井上 (2004) のこの「変化」に対する見方は木村 (1997) の「変化」に対する見方を踏襲したものである。木村 (1997) では、動作は継続的なプロセスを表すが、変化は継続的なプロセスはなく、起点と終点が重なり合った「点」的な状態を表しており、したがって、動作は完了の姿で現れるだけでなく、その他の姿でも現れることができるが、変化は完了した後でなければ現実の時間に存在することはできない。変化は完了する以前は「無」の状態なのであるという。そして、変化の概念 (イメージ) を下記のように図示している：

(23)⁵



> : 状態移動の瞬間 ; ● : ある種の現象 ; t : 時間の経過

たとえば、(23) のようなイメージを持った動詞の例として、“死”という動詞を考えてみよう：

(24) 这条金鱼一会儿就要死了。「この金魚はまもなく死ぬようだ」「未来」

(25) 那条金鱼昨天死了。「過去」

“死”という動詞は、現実の時間に沿って、「生きている状態」から、生きていない「状態」への「変化」を持ち、点的状態(境界)があることで局面が二つに分かれていることを示す“了”を伴って具現化される⁶。ここで、注意しておかねばならないことがある。それは、中国語のアスペクト標識(動詞接尾辞)である“了”(完了)や“着”(維持)は、動詞句で定義される概念の形を、既に具現化された実体として描く形式であるということである。“了”は出来事が<閉じた形>(境界)をとって、“着”は出来事が<開いた形>をとって時間軸上にあることを表すだけである。つまり、“了/着”の役割は、あくまで動詞句で定義される概念としての形を実体として描くことに限定される⁷。従って、変化動詞が未来の事象を表す時でも“了”と共起しない(26)は不可である⁸。また、“死”は<開いた形>を持たないので、

(27) も不可である：

(26)* 这条金鱼一会儿就死⁹。

(27)* 这条金鱼死着¹⁰。

また、木村 (1997) では、(23) のような変化の概念を“死”のような動詞だけではなく、自律的な変化を表す「形容詞+“了”」も持っている想定している：¹¹

(28) 天亮了¹²。

(29) 叶子红了。

(30) 信号灯红了¹³。

(31)?? 玻璃杯干净了。

(32) 玻璃杯洗干净了。

(28) は“天”が“亮”という状態に、(29) は“叶子”が“红”という状態に(30) は“信号灯”が“红”という状態に自然に変化したことを意味する自律的な変化を表している。これは“亮”や“红”のような形容詞が(23) のような概念を持つものであるために、(28)-(30) の表現は可能なのである¹⁴。しかし、(31) は“玻璃杯”が“干净”という状態に自然に(自律的に)変化するとは考えにくい。そのため、たとえば(32) のような言い方にしなければならない¹⁵。

井上 (2004) では木村 (1997) の(23) の「変化」の概念を VR 構造(非自律的な変化)に発展させ、その概念を(22) のように規定した。それを図示すると次のようになる：¹⁶

(33) 「動作」(状態なし) ———→ 「結果」(状態あり)

(34) “洗干净了”(洗ってきれいになった)¹⁷

“洗” ———→ “干净”

井上 (2004) では VR 構造はこの二つの局面が時間の推移に沿って変化したという考えをもとに、下記の文を説明する：

(35) 他的病已经治好了。「彼の病気はもう治療して治りました」¹⁸

(36) 他的病已经好了。「彼の病気はもう治りました」

(37) 自行车已经修好了。「自転車はもう修理して治りました」

(38)* 自行车已经好了。

ただし、井上 (2004, 2006, 2009) で言及されている VR 構文はいずれも VR 自動詞構文である。VR が「動作」と「結果」を隣接させることにより「局面変化」を持つということは、VR 自動詞文においては主語が VR の「局面変化」を被る対象になると解釈されることは理解しやすい。では、VR 他動詞文はどうであろうか?そこで、もう一度(4)～(6)の例文に戻ってみよう。

5. VR 他動詞文

(7) 武松打死了老虎。

(8) 胖子坐塌了椅子。

(9) 张三推倒了大树。

(7)は他動詞の“打”「殴る」が動作主である“武松”の“老虎”「虎」への働きかけを表し，“死”は“武松”の働きかけの影響を受けた“老虎”の状態変化を表す。前節でみたように，“VR”構造はV「動作」とR「結果」が隣接されることにより「局面変化」を表すものであることから、主語の“武松”はこの「局面変化」を引き起こす主体、即ち使役主に、目的語の“老虎”は「変化」を被る主体、即ち、被使役主に解釈される。この時に“打死”が使役他動詞の役割を務めていると解釈される。(9)は(7)と同様な説明が可能である。(8)は“坐”は人間の姿勢を表す動詞であるが、主語の“胖子”が座ることにより，“椅子”に対する働きかけが推測され，“塌”は“胖子”の働きかけの影響を受けた“椅子”の状態変化を表す。“VR”構造は「変化」を表すものであることから、主語の“胖子”は「変化」を引き起こす主体、即ち使役主に、目的語の“椅子”は「変化」を被る主体に解釈される。この時に，“坐塌”が使役他動詞を務めていると解釈される。

(10) 这本书我已经看完了。

(11) 我们学到第十三课了。

(12) 昨天我在街上看见了他。

(10)-(12)はVR他動詞文の形式をとっているものの“完”，“到”，“見”は目的語の状態変化を示すものではなく，Vが表す動作の達成を示すマーカの役割を示しているに過ぎないので，使役の意味には解釈されない。

(15) 他跑丢了一双鞋。

“跑”は“他”の行為を表し，“丢”「なくす」は他動詞であるが，人の動作を意味する動詞ではないので，“他”は動作主ではない。従って“跑丢”も使役主には解釈されない。

6. まとめ

本稿は，中国語教育の際に予め知識を整理するものである。特に，中国語文法現象の一つとしてのVR構文がそもそも何を表しているのかということについて，英語の結果構文がX causes Y to become Z (SVOC)という使役構造のモデル構文を反映しているということを引き出しに，明らかにしようと試みるものであった。その結果，次のようにまとめられる：

(i) (7)－(9)の例文を見ると，VR構文は英語と同様に使役構造を反映しているように思えるが，他動詞構文の形式を取っていても，必ずしも使役的な意味に解釈されないものがある。

(ii) VRによっては，存現文に現れるものもある。

(iii) 木村(1997)や井上(2004)はVR構造が時間の推移に沿った二つの局面の変化を表すと述べている。従って，VRが変化を表すと想定すると，VR自動詞文の場合，主語は変化を被る主体に解釈されることは理解しやすい。

(iv) VR他動詞文の場合，VR自動詞文ほど単純ではなく，VやRの種類，目的語の性質などを考慮に入れなければならない。

注

- 1 村尾治彦 (2006), Goldberg(1995)(河上誓作 / 早瀬尚子 / 谷口一美 / 堀田優子訳 (2001) 『構文文法論』) 参照。英語の例は村尾治彦 (2006) より引用したものである。
- 2 石村 (2008) を参照。
- 3 (8)～(21) は北京大学漢語語言学研究中心の語料庫 (CCL) からの用例である。
- 4 井上 (2004, p. 150) では (22a,b) のほかに, (i) 日本語では動詞の完成相形式「なる」自体が時間の推移の意味を含んでおり, 自動詞単独で「変化」を叙述できる, (ii) 日本語と中国語のこのような違いは, 文法カテゴリーとしてのテンスの有無と密接に関係すると述べている。
- 5 原文は中国語であり, 発表者が翻訳したものである。
- 6 井上・生越・木村 (2002, pp. 147-148) より引用。
- 7 井上・生越・木村 (2002, p. 147) を参照。
- 8 能願動詞“会”と共起する場合は不可ではない:“(26) 这条金鱼一会儿就会死”。ただしこの場合は話し手の自己判断による叙述であり, 現実の時間に現れる具体的な事象ではない (木村 1997, p.189)。
- 9 木村 (1997, p. 188) では例文番号は (24) である。
- 10 「(門が) 開く」のように「結果状態維持」の局面を持つ動詞句は“门开着”のように結果状態の局面を持つ動詞句に言及できる (井上・生越・木村 2002, p. 149)。
- 11 马庆株 (1992, p. 2) によれば, (18) のような概念を持つ「非持続性動詞」は数が多くないと述べている。
- 12 (28)～(32) は木村 (1997, p. 193) の例文である。
- 13 この例文は木村 (1997) では“??”という判断が付いていたが, 発表の際, フロアの中国語母語話者は問題なくいえるということであった。また木村 (1997) で挙げられていた“信号灯变红了”という例文は (30) に比べて, 硬いニュアンスがあるということであった。
- 14 张国宪 (2006) はこのような自律的な変化を表すことができる形容詞を「変化形容詞」と呼んでいる。
- 15 井上 (2004, 2006) 参照。
- 16 (29) は (22) と井上 (2004) の言及をもとに発表者が作成した図である。(34) は井上 (2004) を引用したものである。実は「動詞」+「補語」が変化を表すということについては荒川(1981)で既に触れられている。
- 17 “玻璃杯洗干净了”という自動詞文は, たとえば“他洗干净了玻璃杯”という他動詞文から, “洗干净”の使役主“他”が背景化され, 統語構造で抑制され, 被使役主である“玻璃杯”を際立たせている (影山 1996, p.184; 申亜敏・望月圭子 2009, p.424 ではこれを「脱使役化」という) と考えることができる。“玻璃杯”は変化を被る対象であるため, “玻璃杯洗干净了”は非使役的な意味に解釈される。
- 18 井上 (2004, pp. 148-149) の例。中国語話者によれば, (35) の場合, 重病にかかっていた人の病気が治療の結果, 健康を回復したと解釈でき, (36) の場合, 単なる風邪とか, 比較的軽めの病気等から回復した時に使われるという違いがあるという指摘を受けた。

参考文献

- 秋山淳 (2010) 「動詞＋結果補語の使役義獲得について」『九州中国学会報』: 1-14.九州中国学会。
- 荒川清秀 (1981) 「中国語動詞にみられるいくつかのカテゴリー」『愛知大学文学論叢』第67編
- 荒川清秀 (1982) 「中国語の語彙」『講座日本語学 12 外国語との対照Ⅲ』: 62-84
- 荒川清秀 (1986) 「中国語動詞の意味による段階性」『中国語』8月号: 30-33
- 石村広 (2008) 『中国語の結果構文に関する研究 —VR 構文の意味構造とヴォイス—』東北大学大学院文学研究科言語科学専攻博士論文
- 井上優・生越直樹・木村英樹 (2002) 「テンス・アスペクトの比較対照 — 日本語・朝鮮語・中国語 —」生越直樹編『シリーズ言語科学 4 対照言語学』125 —東京大学出版学会
- 井上優 (2004) 「日本語と中国語の「変化」の表現」『次世代の言語研究Ⅲ』筑波大学現代言語学研究会
- 井上優 (2006) 「日本語から見た中国語」『日本語学』25 卷 3 号: 26-32. 明治書院
- 井上優 (2009) 「「動作」と「変化」をめぐって」『国語と国文学』(至文堂) 86(11) 132-142
- 影山太郎 (1996) 『動詞意味論』くろしお出版
- 木村英樹 (1997) 「‘変化’和‘動作’」『橋本萬太郎記念中国語学論集』内山書店
- 木村英樹 (2006) 「「持続」・「完了」の視点を越えて — 北京官話における「実存相」の提案 —」『日本語文法』6(2): 45-61. 日本語文法学会
- 申亜敏・望月圭子 (2009) 「中国語の結果複合動詞」小野尚之編『結果構文のタイポロジー』: 407-450. ひつじ書房
- 鈴木武生 (2004) 「中国語結果構文の派生とアスペクト性」『日本言語学会第 129 回予稿集』: 309-314. 日本言語学会
- 辻幸夫 (2002) 『認知言語学キーワード事典』研究社
- 村尾治彦 (2006) 「結果構文における認知領域と拡張の方向性」『認知言語学論考』: 199-240. ひつじ書房
- 楊明 (2009) 『中国語の結果構文における動補構造の研究』千葉大学大学院人文社会科学研究科博士論文
- 马庆株 (1992) 《汉语动词和动词性结构》北京语言学院出版社
- 马真・陆俭明 (1997) <形容词作结果补语情况考察(二)>《汉语学习》第4期: 14-18
- 沈家煊 (1995) <“有界”与“无界”>《中国语文》第5期: 367-380
- 沈家煊 (2003) <现代汉语动补结构的类型学考察>《世界汉语教学》第3期: 17-23
- 张国宪 (2006) 《现代汉语形容词功能与认知研究》商務印書館
- Chu, Chuancey C. (1976) “Some semantic aspects of action verbs.” *Lingua*, 40.43-54
- Goldberg, A. (1995) *Constructions*, University of Chicago Press, Chicago. (河上誓作/早瀬尚子/谷口一美/堀田優子訳 (2001) 『構文文法論』研究社)

- Langacker,R. (1990) *Concept,Image,and Symbol*,Mouton de Gruyter,Berlin.
- Li Charles N.&Thompson Sandra A. (1981) *Mandarin Chinese*. University of California Press.
- Tai,James H-Y. (1984) “Verbs and Times in Chinese : Vendler’s Four Categories.”*Papers from the Parasession on Lexical Semantics*, Chicago Linguistic Society, pp. 289-296.
- Tai,James H-Y. (1985) “Temporal Sequence and Word Order in Chinese.” *Iconicity in Syntax*, John Haiman, ed., Amsterdam: John Benjamins Publishing Company, pp. 49-72.
- Tai,JamesH-Y. (2003) “Resultative Construction in Chinese.” *Language and Linguistics*4.2. : 301 – 306

本稿は 2011 年 1 月 8 日，西南学院大学で行われた日本中国語教育学会九州地区研究会での口頭発表を修正したものである。発表の際，貴重な意見，コメントを下された先生方には記して感謝の意を表したい。